

事例紹介(1)

福島県内の旅館・ホテルと、浜通りの漁業・水産関係者を結ぶ商談会を開催

福島県内の宿泊施設500軒が加盟する福島県旅館ホテル衛生同業組合の「ふくしまDC」施策プロデュースを受託。震災と原発事故の影響で途絶えてしまった「常磐もの」の県内販路の復活を目指した商談会を企画運営しています。

- 7月29日(火)福島会場(土湯温泉ホテル山水荘)
- 8月19日(火)いわき会場(いわきラトブ)
- 9月 9日(火)会津会場(会津文化センター)

福島 NEWS WEB

海産物の“常磐もの” 販路拡大に向けて商談会 福島

07月29日 19時01分



水揚げ量の回復が進む「常磐もの」の販路を拡大しようと、県内の宿泊施設と生産者の商談会が福島市で開かれました。

この商談会は、原発事故の影響で一時、水揚げ量が落ち込み、その後、回復が進む「常磐もの」の魅

力を知ってもらおうと福島市土湯温泉町にあるホテルで開催され、県内の宿泊施設の関係者や漁業関係者合わせて40人余りが参加しました。

はじめに、主催した県旅館ホテル生活衛生同業組合の小井戸英典理事長が「観光客に対して自信を持って福島県の魅力を伝えられるよう、素材への理解を深めたい」とあいさつしました。

続いて、参加した人たちは、常磐ものの刺身やフグ鍋、天ぷらなどを実際に味わったあと生産者との商談で「常磐もの」への理解を深めていました。

参加した漁業関係者は「これからの漁業者は、魚を捕るだけでなく魚の魅力や情報を発信していくことが求められる」と話し、旅館の関係者は、「流通の関係で、浜通りの刺身の扱いが難しかったが、この商談を機に、今後はその土地ならではのおいしいものを取り入れて観光客にアピールしたい」と話していました。



↑いわき会場商談会の模様

↑NHK福島放送局

事例紹介(2)

浜通りの産品を企画・販売する地域商社人材を育成するセミナーを開講



福島相双復興推進機構の事業として、被災12市町村に「地域商社」を立ち上げる人材を育成するセミナーを開講しています。

講座の企画運営は二本松市で地域商社「あきんど」を運営する廣田氏など実績のある方々と連携。セミナーは「地域商社立ち上げコース」と「商談会実践コース」に分かれており、8月から1月まで全4～5回のカリキュラムで学びを深めます。

- 第1回講座 8月20日(水)
(小高パイオニアビレッジ)

